



特殊清掃士を養成

孤立死増 需要見込む

プロジェクト シンジェ

【札幌】シンクプロジェクト（北海道千歳市、0123・42・0556）の木村栄治社長は一般社団法人事件現場特殊清掃センターを設立し、事件現場特殊清掃士の養成講座を始めた。IT関連事業を手がけるシンクプロジェクトのノウハウを活用し、インターネットなどによる通信制で行う。すでに遺品整理士認定協会を立ち上げ、2011年11月に遺品整理士養成講座を始めており、今回は第2弾の通信制講座の開講となる。

事件現場特殊清掃士、遺品整理士の両養成講座とも受講費は2万5000円で、標準的な受講期間は2カ月。資格認定試験に不合格、勉強が遅れ

ているといった場合、受講費の追加なしで延長できる。主な対象は、ゴミ処理業者の関係者。事件現場特殊清掃士は3月に入って

募集を始め、現在の申し込みは300人以上に達した。年1000人程度の受講を見込んでいる。遺品整理士は約1年半で全国から約6000人が

受講、約1500人が資格を取得した。

現状では両方とも民間による任意の資格だが、将来は国家資格への移行を目指す。今のところ、国内に同様の民間資格はないという。国家資格への移行と信頼性の確保を念頭に、この分野を所管する環境省の指導を受けて運営している。

木村社長は2年前、父

を亡くして遺品整理をするようになった際、業界のことを調査。少子高齢化、核家族化の進展で需要増加が確実だが、まだ業界が確立されていないことを知り、専門的な人材を養成するための講座運営に乗り出した。

さらに「ゴミ屋敷」のような現場で高齢者が孤立死するケースが社会問題化しているのを受け、感染症対策などの知識を身に付けた事件現場特殊清掃士の養成まで領域を広げた。木村社長は「利用者さんが安心して依頼できる業界の確立につなげた」としている。